

# フレンドリー

## FRIENDLY



平成30年度を振り返って



ベルギー・ナミュール市高校生訪問団受入



十萬石祭り



外国語基礎会話講座



中学生ドイツ・シュツットガルト市派遣

公益財団法人大垣国際交流協会30周年記念事業  
**フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い**  
Friendly Cities Exchange/Multicultural Promotion Assembly



グレンアイラ市長よりビデオメッセージ



多文化紹介講座



日本語教室「せいかつのほんごクラス」



小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市派遣



高校生アメリカ・ピーバートン市、ユージーン市派遣



浴衣体験



日本語指導ボランティア講座

No. **87**  
2019  
**MARCH**

# 30周年記念事業 ～フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い～

2月17日(日) スイトピアセンター、スイトピアホールにて

昭和63年(1988年)に設立された大垣国際交流協会は、今年度で設立30周年を迎えました。賛助会員、ボランティア登録者、海外研修派遣団員OBなど協会に関わりの深い方々や外国人を含む市民のみなさん、計245人にご参加いただき、記念式典と交流会を実施しました。

## 設立30周年記念式典

日比理事長の式辞に始まり、小川敏大垣市長、石川まさと大垣市議会議長をはじめ来賓の方からの祝辞を頂き、また海外フレンドリーシティの行政関係者からのビデオメッセージの上映をいたしました。



▲小川市長の祝辞



▲海外フレンドリーシティからのビデオメッセージ上映



▲日比理事長の式辞



続いて、国際交流ボランティアとして15年以上登録をされている16名の皆さまに感謝状を贈呈しました。

15年以上の長きに渡りご登録いただき、海外からの訪問団受入時のホームステイや日本文化紹介、通訳、また地域在住外国人市民への日本語支援事業などの事業活動にご協力いただきました。

ありがとうございました。今後もよろしくお願ひ致します。

## 16名の皆さまに感謝状を贈呈

古田 優山様	梶岡 久子様	角田 敬様
山田 利彦様	森 妙子様	子安 百合子様
田中 幸子様	臼井 芳子様	丸山 雅和様
松下 卯蔵様	大野 久美子様	北岡 琢己様
石川 雅啓様	若杉 かおり様	杉岡 智子様
大澤 悦子様		



▲代表してごあいさつをしていただきました



## 多文化共生交流会

式典に続き交流会にも多くの方にご参加いただきました。写真による30年の歩みの振り返りのほか、海外フレンドリーシティの関係者からのビデオメッセージ上映、フレンドリーシティ派遣事業の団員OBや学校法人HIRO学園生徒のスピーチ発表を行いました。

また、外国の文化紹介として、ブラジルの「サンバ」や格闘・音楽・ダンスの3つの要素が合わさった「カポエイラ」、またネパールの踊りの披露をしました。加えて、フィリピン、ベトナム、ブラジルなどの外国の食文化の体験をしながら、参加者同士の交流も大いに盛り上がりしました。

### 学校法人HIRO学園の生徒のスピーチ



丸岩 セリーネ カオリさん

山本 マヤラさん

「わたしの街」というテーマのスピーチ

岩下 ルーカス ヒデキさん

平成30年12月開催されたNPO法人可児市国際交流協会主催の「第8回日本語作文コンテスト」に出場した際の作文を発表してくれました。

### 海外研修派遣団員OBの体験談スピーチ



平成23年度  
ベルギー・ナミュール市派遣  
大角 碧唯さん

平成29年度  
中国・邯鄲市派遣  
家倉 隆慶さん



平成29年度  
ベルギー・ナミュール市派遣  
川添 有希さん



▲ブラジルの格闘・音楽・ダンスが合わさった「カポエイラ」



▲ブラジルの踊り「サンバ」大いに盛り上がりしました



▲ネパールの踊り



## 交流コーナー

岐阜経済大学の留学生の方の協力により、ベトナムとネパールの料理を提供しました。

また、特設ステージでは、「カポエイラ」と「サンバ」の披露もしました。



参加者もカポエイラに飛び入り参加!!



▲ベトナム人留学生によるベトナムコーヒーの振る舞い



## 日本文化紹介(お点前)

外国人市民のみなさんをはじめとする参加者の方に、日本文化紹介ボランティアの皆さんのご協力のもと、20人の定員もすぐにいっぱいになり、たくさんの方にお茶を楽しんでいただきました。



地域の皆さまのご理解、ご協力により30年間歩むことができたことに感謝申し上げます。

今後もフレンドシティ交流や地域在住外国人市民と共生できるまちづくりに根ざした活動を幅広く展開していきます。皆さまの変わらぬご支援とご協力をお願い致します。

# 第12回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣

(7/21～7/28 中学生8人、引率者3人)

## 日程表

7/21	ドイツへ出発 ホストファミリーと対面
7/22	ホームステイプログラム
7/23	学校訪問、ヴィルヘルム動物園
7/24	ノイシュヴァンシュタイン城見学
7/25	学校訪問、表敬訪問、 ペンツ博物館、懇親会
7/26	ハイデルベルク城を見学し、 フランクフルトへ
7/27	日本へ向けて出発
7/28	帰国 家族が待つ大垣に到着



▲出発式では、教育長らに挨拶をしました。



▲中部国際空港(セントレア)にて

## 表敬訪問・市内見学



柴田 理名  
(愛知淑徳中学校3年)

私達は大きな市庁舎へとやってきました。市役所というより教会のような建物にすごく驚きました。中へ入ると扉がなく、動き続けている「パーテルノステル」というエレベーターにドキドキしながら乗りましたが、楽しかったです。

会議室の中では、市長さんの話を聞いたり、シュツットガルト市のVTRを見たりしました。色々な国、人種の人々がシュツットガルトで共に生活しているのを知り、素晴らしいと思いました。また、古いけれどもきれいな街並みが多くて、日本との文化の違いを実感できました。



▲表敬訪問



扉のないエレベーターに  
ドキドキ、ハラハラ。



市内中心部に新宮殿があり、屋根の上にはたくさんの像が並んでいます。一つ一つ格好が違ったので見比べるのが楽しかったです。前に広場があって、多くの人が芝生の上で寝転がったり、踊ったりしてとても明るい雰囲気でした。

新宮殿の向かい側には旧宮殿が建っていました。新宮殿に比べると、色合いも作りも質素でした。現在は州立博物館として利用されているそうです。シュツットガルトの街は道路にたくさんの植物があり、地面がとてもきれいな石畳でできていて、すごく中世ヨーロッパ的な感じがしました。

## ケーニギン・シャルロッテ高校訪問



河瀬 真由  
(北中学校2年)

研修3日目と5日目にケーニギン・シャルロッテ高校を訪問しました。校舎はとても大きく、またとてもカラフルでした。学校には、グラウンドの他にサッカー場、ビーチバレーボールのコート、アスレチックなど日本の学校では見かけないものがたくさんありました。さらに、ケーニギン・シャルロッテ高校は、その周辺で唯一の日本語を教える学校です。

日本の授業とは全く違い、生徒は私服で先生もジーンズを履いていて、自由な雰囲気です。研修5日目は、学期末の礼拝と終業式を見学させていただきました。日本の学校には、このような宗教的な行事がある学校は少ないと思うので、とても驚きました。



▲ケーニギン・シャルロッテ高校の校舎



▲高校の授業風景

## ノイシュバンシュタイン城



▲お城の前で記念撮影

研修4日目に、ノイシュバンシュタイン城に行きました。城は外から見てもとても美しく、中に入ってさらに驚きました。壁はもちろん、天井まで細やかな壁画が描かれていました。

城の中の見学の後、ノイシュバンシュタイン城全体が見えるマリエン橋に案内してもらいました。そこから見たノイシュバンシュタイン城はとても迫力があり、立派に見えました。どこから写真を撮っても絵になり、思わず何度もシャッターを切りました。日本の城も力強く、僕は好きなのですが、繊細だけれど堂々としていて、存在感のあるノイシュバンシュタイン城もとても好きになりました。



ドイツといえば、  
ソーセージ。  
おいしかったよ。



海老 壱喜  
(西中学校1年)

## ハイデルベルクの街並み



桑原 光汰  
(星和中学校2年)

年間300万人が訪れるこの街は、日本と違い、屋根と壁の色が統一され、バスの中から見た街並みの美しさは最高でした。美しい街並みを見ると、昔から平和が続いているように感じましたが、大きな争いによって街が壊されたこともあるそうです。この街は、シュツトガルトともフランクフルトとも違う、中世のヨーロッパという感じの街で、日本では見たことのない雰囲気です。実際に街を見て歩く貴重な体験をすることができ、本当によかったです。またいつか機会があれば、もう一度訪れたい街です。



## ヴィルヘルマ動物園



ヴィルヘルマ動物園は世界の動物園の中で2位という広さを持っていて、そして植物園も合わせるとヨーロッパで最大の庭園となるそうです。1,000種類以上の生物が飼育されており、動物園の多いドイツでも歴史が古く、様々な希少動物の繁殖にも成功しているそうです。私が行ったことのある日本の動物園とは違う所がたくさんありました。衛生面や食事の量、動物の種類や飼育の仕方が違ったりして、そこを見つづけるのも楽しかったです。



松藤 羽南  
(東中学校2年)

ホームステイは私がこの研修で一番楽しみにしていたことです。今回私が受入れてもらった家族は、ナタリーとご両親とお姉ちゃんの4人家族です。浴衣や下駄などプレゼントをあげました。ナタリーに浴衣の着付をしてあげた時にナタリーもご両親もとっても喜んでくれて、たくさん写真を撮っていました。日本の文化をすごく気に入ってくれて、私もプレゼントを持ってきてよかったな、難しかったけど着付けをしてよかったなと思いました。

今回のホームステイで学んだことは、ゲストはホストにただお世話をしてもらうだけでなく、逆にゲストからホストに何かをしてあげて喜んでもらえることが、とても良い思い出になるということです。今度ホストファミリーとしてゲストを迎える時は、今回の経験を生かして、自分達の文化を伝えるだけでなく、相手の国の文化にももっと興味を持って、お互いのことをよく知り合えるようなホームステイを心がけたいと思います。

## ホストファミリーとの思い出



渡部 明希  
(名古屋国際中学校2年)



▲ホストファミリーと記念撮影

私を温かく迎えてくれたのは、ホストフレンドのジェシカ、妹のジェニファー、お父さん、お母さんの4人家族です。ジェシカの家は音楽好きの一家です。お父さんはギター、ジェシカはドラム、そしてジェニファーはピアノができます。お別れの日の前日、私のひくギターにジェシカのドラムとジェニファーのピアノを合わせて両親の前で披露しました。毎晩の練習の甲斐もあり、とても喜んでくれました。お世話になったのは5日間でしたが、ずいぶん親しくなり、別れるのが寂しくなりました。私達は、音楽を通してより仲を深める事が出来ました。そこから音楽も世界で愛されており、人と人をつなぐことができるということを知りました。仲良くなったジェシカとは、今後もメールをしながら交流を続けていきたいです。



木曾 媛香  
(東中学校2年)



## 懇親会

ホストファミリーとの懇親会は、自分達の日本についてのパフォーマンスを披露するところです。私達はPR動画、書道、篠笛、茶道、かるたをしました。事前研修で何回も練習をやってきたけど、練習と本番では雰囲気が違って緊張しました。

私と海老さんがやった書道では、行書と楷書の2種類で「花」を書きました。緊張した空気の中でも失敗せずにやりきることができました。また、書道の楽しさを伝えられるような字が書けました。懇親会では、ホストファミリーとの絆を深めることができました。日本の文化や大垣の紹介をして日本や大垣について知ってもらうことができました。



河村 瑞乃  
(東中学校2年)

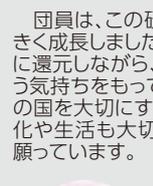


PR動画、書道、篠笛、茶道、かるたなど披露したよ。



団長 堀田 一浩  
(南中学校長)

今回の研修で私は改めて、外国へ行き、その土地や生活の様子を自分の目で見て、その国の空気を肌で感じる事の大切さを痛感しました。外国を訪れる機会というだけでも有意義ですが、さらに今回の研修のように現地の方々との時間を共有することができたということは、本当に貴重な体験になったと言えます。



総務兼通訳  
高木 あや  
(星和中学校教諭)



総務 熊谷 康宏  
(国際交流協会職員)

交流のいろいろなタイミングで、過去の大垣との交流に関わりのあった引率の先生や団員にお会いする事ができました。今後の交流を紡ぐ力もまた増えていくと思います。こうして紡がれた交流が、これからもずっと、新しい絆を、笑顔を生み出してくれることを願っています。

# 第7回大垣市小・中学生 オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣

(8/15~8/22 小・中学生9人、引率者3人)

## 日程表

8/15	オーストラリアへ出発(機内泊)
8/16	到着、コーフィールド小学校訪問、 歓迎レセプション、ホストファミリーと対面
8/17	グレンアイラカレッジ訪問(1日目)
8/18、8/19	ホームステイプログラム
8/20	グレンアイラカレッジ訪問(2日目)
8/21	ホストファミリーとお別れ シドニー見学
8/22	帰国 家族が待つ大垣へ



▲グレンアイラ市の  
トニー・アサナソパウロス市長と



▲出発式で研修の目標、決意を述べました。

## 事前研修



岩津 有希  
(西部中学校2年)

初めての事前研修で、僕たち12人の団員が対面しました。1人ずつが自己紹介をし、自分の抱負を仲間に伝えました。その後、全員で団の目標とパフォーマンスを決めました。大垣の紹介、日本舞踊、合唱を発表することになりました。



▲英語の学習もしました

いよいよ  
しゅっぱーつ!!



計4回の事前研修で、オーストラリア派遣の準備を整え、同時に仲間との絆も深まってきました。1回1回の研修を大切にすることで、無事に出発の日を迎えることができました。

## コーフィールド小学校訪問&歓迎レセプション

大垣市立中川小学校の姉妹校でバイリンガル教育をしている、珍しい学校です。授業を見学すると、低学年の子が日本語で授業を受けていました。間違っていると教えてくれると「ありがとう」と言ってくれました。日本語を一生懸命勉強している姿を見て嬉しく思いました。



▲生徒が作った日本語の俳句が  
掲示されていました



山村 心愛  
(西中学校2年)



温かく迎えて  
くださった市長



▲歓迎レセプションで日本舞踊を披露

次に市役所で歓迎レセプションを行いました。ここでは私たちのパフォーマンスを披露する初めての機会です。本番は成功して拍手がまきおこりました。終わった後も「上手だったね」「すごかった」という言葉を頂き、とても嬉しかったです。

## グレンアイラカレッジ(中高一貫校)



種田 逸真  
(東中学校3年)

学校に着くと、男の子たちがバスケットボールをしていました。学校には部活などは無いので、みんな制服のまま楽しそうにやっていました。

最初に体育の授業に参加しました。オーストラリアンフットボールと呼ばれるラグビーに似たスポーツを行いました。チームは男女混同でももちろん知らない子ばかりだったので、まず自分から話して、輪にとけこめるようにコミュニケーションを多く取りました。そうすると、みんな楽しく授業を行うことができ、とても嬉しかったです。



▲一緒に体を動かしてすぐに親しくなれた  
体育の授業



▲歌を披露してくれたグレンアイラカレッジの生徒

昼食では、外で食べる人、教室や図書館で食べる人など、とても自由でした。私は外で食べたのですが、冬だったので寒くて食事どころではありませんでした。お菓子を持ってきている姿を見て日本とは全然違うことがよくわかりました。

最後は私たち派遣団のためにグレンアイラカレッジの生徒が歌や踊りを披露してくれました。私が好きだったのは、日本語と英語を使ったグジャレ、「へびはheavy」など。

私はグレンアイラカレッジを訪問してたくさんの生徒に話しかけてもらい元気をもらいました。



▲ホストシスターと外で昼食



三宅 泉恋  
(上石津中学校2年)

## 思い出がたくさん ホームステイ



岡田 真紘  
(星和中学校2年)

ホームステイの前はオーストラリアの家庭の様子などは日本とあまり変わらないのではないかと考えていたけど、5日間のホームステイを通してオーストラリアでは広大な土地に1階建ての家がとても多い事や洗濯を毎日しないことなど日本と異なる部分をたくさん発見することができました。

日本人は英語に苦手意識を持っていて、正しい英語で話さなければいけないと思いがちです。しかし、今回のホームステイを通して相手に伝えようとする思いと

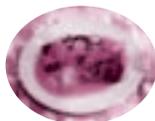
相手が理解しようとする思いがあれば多少の間違いは問題ではなく、コミュニケーションを図ろうとする気持ちが大切なんだと知りました。



▲ホストシスター、ホストブラザーと



▲私たちの第2の家族、ホストファミリー



◀とってもおいしかったラム肉のステーキ

最初、1人で何日間もいるのは、とても緊張しましたが、ヨシコさんが僕を孫のようにかわいがってくれて、本当に優しくしてくれたので、とても安心して過ごすことができました。毎日、色々な人というんなところに行き、とても楽しいホームステイでした。

最後の夜は、ヨシコさん手作りのラム肉のステーキを食べました。とても柔らかくて、今までの人生で食べたものの中で一番美味しいと思いました。まだここにいたいという気持ちと早く日本に帰って、友達や家族に会いたい気持ちがあり、複雑な気分になりました。

オーストラリアの人達は優しく、僕にたくさん話しかけてくれました。僕も日本で海外の人にあったら、話しかけたり、助けたりしたいです。



原 康晟  
(興文中学校1年)



▲不安がありながらも一番楽しみにしていたホームステイ

この5日間のホームステイで本当に色々な経験をして、ホストシスターのエライザと折り紙を折ったり、私が持ってきたお土産のけん玉と一緒に遊んだり、たくさんコミュニケーションをとることができました。そこから私は、コミュニケーションの大切さがよく分かりました。自分が何かを伝えたいときは言葉だけじゃなくて、身振り手振りで伝えようとするれば言ってくれようとするし、伝わった時はもっと仲が深まることをいろいろな場面で実感しました。



吉田 菜乃花  
(赤坂中学校3年)

## バーベキューパーティー



僕たちメンバーとホストファミリー、そしてロータリークラブのメンバーが集まることになっていました。しかし、時間になっても3家族が集まりませんでした。結局、全員が集まったのは約30分後でした。パーティーなどに遅れて集まることは事前研修を通して知っていたけど、その感覚の違いには改めてビックリしました。

食べ終わった頃、予定はしていなかったけれど、ホストファミリーやロータリークラブの方々に感謝を表現するため合唱と日本舞踊をすることになりました。終わった後、日本のように笑顔で拍手をするだけでなく、体を使って、声もだしながら表現豊かに気持ちを表してくれたので、とても嬉しかったです。



山 慧太郎  
(興文中学校2年)

## シドニー



野上 優衣  
(東小学校6年)

オペラハウスでは、歴史、作った人、工夫などをたくさん教えてもらい、良い機会になりました。オーケストラのリハーサルの様子や演奏を少しだけ聞くことができました。力強い演奏で、とても心に響きました。オペラハウスの形は見たことがない不思議な形で、そのために工事の期間が14年かかったと聞きました。どうしてこの形にしたかオペラハウスの事をもっと調べてみたいと思いました。白く見える壁も、近くで見ると白とベージュの2色になっており、それも白色をより美しく見せるための工夫だと知り、とてもびっくりしました。



▲世界遺産オペラハウス



団長 小藪 卓郎  
(綾里小学校校長)

7日間の滞在では、オーストラリアの教育・自然・文化・歴史などに触れ、どの団員も貴重な経験を積むことができました。たくさんの方と出会って私が最も強く感じたことは、この国が多民族国家として発展する中で「大らかさ」という国民性が築き上げられ、それが基となって良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの図り方ができているということです。



総務兼通訳 多和田 泰子  
(星和中学校教諭)



総務 吉安 三恵  
(大垣国際交流協会職員)

お別れのときに誓った「いつかまた会おうね!」。距離は遠いけれど心は近い国になったオーストラリアの家族とこれからもつながりを持ってくれることを願っています。多くの人に支えられて繋がってきた交流をこれからも大切に、そして今回の経験や感謝の気持ちを次の交流に繋げていくことが、今回訪問した私たちの使命に感じます。

# 第3回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

(10/11~10/19 高校生10人、引率者3人)

## 日程表

10/11	出発 ---日付変更線---
10/12	到着後、ビーバートン市(市役所、警察署) ユージーン市へ移動
10/13、10/14	ホームステイプログラム
10/15、10/16	高校訪問
10/17	ジョージフォックス大学、ポートランド、ホームパーティー
10/18	オレゴンを出発し、日本へ帰国
10/19	到着



▲再会を誓ったホストファミリーと



Beaverton

## ビーバートン市



西村 結  
(大垣東高校2年)

ビーバートン市は、私たちが一番初めに行った都市です。そのため、日本との違いにとっても驚きました。アメリカ合衆国の街並みの印象は、高い建築物が多くあることでしたが、ビーバートン市はとて自然豊かな街でした。

市役所では、市長さんが優しくお出迎えてくださいました。市長さんはオバマ前大統領と面識があり、二人で撮った写真を大切に市長室に飾っていました。次に警察署に行きました。警察署にある簡易的な牢屋に入りました。とても狭く、冷たく、頑丈でした。他には手錠をかけさせられたり、警察犬と触れ合ったりしました。



▲気さくにいろいろと話しかけてくださったデニー・ドイル市長



▲警察犬について説明を受ける団員



## ユージーン市

ユージーン市の市長さんは女の方で、ユージーン市の今の状態を私達に説明してくれました。まず、自然を大切に近代化を目指していることを話してくれました。また、女性の職業率が高く、議員は8人中4人が女性でした。ですが、課題もたくさんあり、特にホームレスの人数が減らないことらしいです。ホームレスが市役所の前に多いのは、今の政策への行動での抗議であり、私達はこれに、向き合っていないといけない、と市長さんは話をしていて、かっこいいと思いました。

市長さんの話をきいて、私も将来は女性であっても男性に負けなくらい働けるようになりたいと思いました。



▲自然に囲まれたユージーン市



▲ルーシー・ヴィニス市長と



早藤 瑞起  
(大垣北高校2年)

## ジョージフォックス大学

芝生が広がっている中に木や花などの植物が美しく植えられていたり、ベンチがあつたりして、開放的かつ落ち着いた雰囲気の学校であった。校内は、この大学に通う学生と教員が案内してくれた。この大学のスローガンは“Be Known”だそうである。この大学で活動する人たちが互いに知り合い、理解し合い、温かい関係を築けるようにという願いが込められている。そして、第2の家族と言えるぐらいの、深い絆を築きあっているようだ。だから、学生同士はもちろん教員とも仲がよいようだ。このような、自由で温かい学校に進学してみたいと強く思った。



▲学生の案内で校内を見学しました



松本 唯愛  
(大垣北高校1年)



## ポートランド



ポートランドは、オレゴン州最大の都市であり、近くには雪を頂くフッド山がそびえています。ダウンタウンでは、とにかくどの建物もきれいで高く、まるで東京にいるみたいでした。大きな広場ではアルパカがいるなど、日本ではなかなか見られない光景も見ることができました。1グループに1枚地図が配られ、初めての地で行動しました。途中で迷子になってしまい大変でしたが、栄えている部分だけでなく、そのほかの一面も見ることができ、よい経験になったと思います。迷ったとき近くにいた人に尋ねてみると、とても丁寧にやさしく教えてくださいました。私にとってこのポートランドのダウンタウン散策は新しい発見や現地の人の温かさに触れることのできた、いい機会だったと思います。



服部 楓  
(大垣東高校2年)

## 高校訪問



馬淵 ひなた  
(大垣北高校1年)

### 【サウスユージーン高校】

ホストシスターの最初の授業はアートの授業だ。全員が同じような作品を作るのではなく、小さなキャンパスや大きなキャンパス、色鉛筆、絵具、クレヨンなどをすべて自分で決め、自分の作品を作っていた。次の授業はライティングだ。この日は俳句や短歌を学んでいた。最後に実際に作ってみるようになった。出来上がった詩を先生が声に出して読み、アドバイスをする。私なら恥ずかしいからやめてほしいと思うのですが、手を上げて積極的に先生を呼ぶ生徒を見てびっくりした。授業を受けさせられている雰囲気は全くなく、学びたいことを自分から学びにいこうという感じだと思った。

広々とした廊下



▲学校生活についてのプレゼンテーションをしました



▲英語と日本語でグループ交流



多賀 文香  
(大垣北高校1年)

### 【チャーチル高校】

高校へ行くときの手段として自分自身の車で行く、学校の自由な風潮、先輩と後輩のしきたりが無いなど例を挙げるときりが無いほど驚いたことがたくさんあった。平屋建ての建物が多く、2階建て以上の建物が見られたのは都市部の一部で高校も平屋建てだった。その分、学校の敷地が広く、私のホストシスターのタチアナは「学校の敷地が広いから教室の移動が大変だ」と教えてくれた。日本の学校とは違い、生徒が授業ごとに各科目の先生がいる教室に行く必要があるため、休み時間になると廊下に出る。だからこそ、多くの生徒同士の交流があり友人の輪が広いようだ。高校の授業は必ずしも年齢が一緒だとは限らない。高校4年生のタチアナは高校2年生の子と一緒に授業を受けているのもあった。最初は驚いたが、とても楽しそうに話している高校生を見て、とても素敵だと思った。

### 【シェルダン高校】

シェルダン高校では、日本語クラスでプレゼンを行った。私達の話す内容や画像を興味深そうに見聞きしており改めて日本とオレゴンの繋がりを感ずることができた。質問の時間には日本の文化、音楽、学校の教科や部活のことなど、身近なことについて交流した。特に日本のアニメや漫画は有名で、中には日本人でも知らないようなものまで知っている生徒もいた。授業の終盤には、オレゴンの生徒数名と大垣のメンバーが1つのグループになり、日本語と英語を使って交流した。母国語が日本語でない人に対して分かりやすい言葉を選んで伝えるか、それは難しいことだったが、今後私たちがグローバルな社会を生きていく上でとても重要なことだと思う。



吉川 清菜  
(大垣北高校1年)

## ホームステイの思い出



豊田 花帆  
(大垣東高校1年)

ホストファミリーはたくさんの場所に連れて行ってくれた。中でも印象的だったのは、「かぼちゃ畑」だ。ずっと先の方まで見えるほど広い畑に映画や絵本に出てくるようなかぼちゃがたくさん転がっている。私が思い描いていたアメリカの景色が広がっていた。ホストシスターは「どの家庭でもかぼちゃを買って仮装をしてハロウィンを楽しむんだよ」と教えてくれた。

初めてのころは、不安なことも多かったけれどホストファミリーがアメリカの事を教えてくれたり、日本の事について質問してくれたり、積極的に話しかけてくれて楽しく過ごすことができた。



▲どこまでも広がるかぼちゃ畑



花木 琉里  
(大垣北高校2年)



▲週末に出かけたビーチ

最初はアメリカンな風貌のホストファミリーに緊張しつつも、お互いにニルヴァーナが好きだとわかると、一瞬で家族の一員になったようでした。ホストシスターは夏に私の家に来ていたこともあって、今回の滞在でとても仲良くなりました。お互いに片言の第2言語で会話をしている様子が、傍から見ればおかしな光景だと思いますが、良い経験になりました。初めての外国人の友達なので大事にしたいです。外国の人と理解はできなくても、お互いに違いを認め合い、近づくには、内にこもらずにどんどん自分から行動を起こすことが大切だと実感しました。

私は、海外へ行くのもホームステイも初めてなのでとても緊張していた。事前にメールで何度かやり取りしたものの不安な気持ちいっぱいでもホストファミリーと対面した。向こうにも少し緊張した感じが見えて私もホストファミリーも同じなのだと思うと何だかほっとした気持ちになった。

私のホストファミリーはスマホの翻訳機能を使わなかったので説明する時は写真を見せてくれたり、ジェスチャーをしたりで伝えようとしてくれて話す英語に多く触られた事が嬉しかった。正直この研修に参加すると決めるときはかなり勇気が必要だったけれど参加して本当によかったし、これからも新しいことに積極的に挑戦していける自分でいたいと思った。



鈴木 花歩  
(大垣東高校2年)



団長 社本 久夫  
(国際交流協会 常務理事)

滞在中に私が一番印象に残っているのは、派遣団員たちが当初の不安と期待の中で、高校体験を精いっぱい頑張っていた姿です。高校体験の1日目は、ホストシスターなどが通う高校での授業参加、もう1日は日本語教室での英語と日本語によるプレゼンテーションや交流体験で、日本での高校生活では考えられない場面や行動に感動し、時には相違を感じ、まさに体験しないと味わえないものでした。



総務 吉安 三恵  
(国際交流協会職員)

将来の進む道を考える岐路に立っている高校生にとって、オレゴンで触れた多様な文化、出会った人々の考え方や物の見方、そしてそれぞれ体験し感じたことは、必ず彼女達の将来の糧になると実感しています。そして、近い将来グローバルな世界で活躍する姿を楽しみにしています。



総務 加藤 咲子  
(国際交流協会 部会員)

# 第8回ベルギー・ナミュール市高校生訪問団受入

(10/27~11/2 高校生13人、引率者2人)

## 日程表

10/27	大垣到着後、ホストファミリーと対面
10/28	ホームステイプログラム
10/29	奥の細道むすびの地記念館、東中学校、歓迎会
10/30	江東小学校、大垣東高等学校
10/31	大垣城、表敬訪問、大垣ロータリークラブ昼食会、 日本文化体験(茶道、浴衣)
11/1	名古屋見学(大須、名古屋城)
11/2	ホストファミリーとお別れし、京都見学(清水寺、金閣寺) 翌日帰国



▲大垣市表敬訪問にて

## ホームステイ



▲ホストファミリーとの対面式



▲訪問団の歓迎会にて

楽しかったです。  
ありがとうございました



▲ホストファミリーとのお別れ

## 市内見学



サムライポーズ!!



大垣の水、  
おいしかったよ

## 学校訪問



▲江東小学校のみなさんと交流  
(書道、英語クラスなど)



▲東中学校にて(授業参加、部活動体験など)



▲東高校にて(授業で交流、剣道体験など)

## 日本文化体験



## 平成30年度を振り返って

### 【国際交流・国際理解事業】

#### 《フレンドリーシティ派遣事業》

- ＊ドイツ・シュツットガルト市中学生研修派遣 (7/21～7/28(8日間)) 中学生8人、引率者3人
- ＊オーストラリア・グレンアイラ市小・中学生研修派遣 (8/15～8/22(8日間)) 小・中学生9人、引率者3人
- ＊アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣 (10/11～10/19(9日間)) 高校生10人、引率者3人

#### 《フレンドリーシティ受入事業》

- ＊ベルギー・ナミュール市高校生訪問団受入 (10/27～11/2(7日間)) 高校生13人、引率者2人

#### 《地域国際交流事業》

- ＊30周年記念事業  
「フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い」(2/17)  
参加者：245人

#### 《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ＊日本語指導ボランティア講座<文化庁受託事業>  
養成編1期(7/27～9/28【全5回】) 受講者：19人  
2期(11/9～12/7【全5回】) 受講者：12人  
ブラッシュアップ編(1/12～2/9【全5回】) 受講者：30人

#### 《民間国際交流助成事業》

- ＊助成事業：4団体4事業

#### 《外国語基礎会話講座》

- ＊英語基礎会話講座 (12/1～1/26 【全8回】)  
講師：加藤 ミリアム氏 (英会話講師) 受講者：23人
- ＊フランス語基礎会話講座 (11/24～1/26 【全8回】)  
講師：西部 美里氏 (フランス語通訳) 受講者：19人
- ＊韓国語基礎会話講座 (1/10～2/28 【全8回】)  
講師：兪 瑞香氏 (韓国語講師) 受講者：10人
- ＊ドイツ語基礎会話講座 (1/21～3/18 【全8回】)  
講師：マーセル・アイカマン氏 (ドイツ語講師) 受講者：13人

#### 《海外事情紹介事業》

- ＊多文化紹介講座  
・トルコ、中国、ネパールの紹介(7/7) 参加者：23人  
・フランス、インドネシア、ドイツの紹介(9/8) 参加者：24人
- ＊海外研修派遣事業報告会  
・小・中学生派遣(11/24) 参加者：52人  
・高校生派遣(12/15) 参加者：26人

#### 《国際相互理解事業》

- ＊事業記録写真等の展示  
(スイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
- ＊広報事業  
・30周年記念誌発行(3月)  
・機関誌「フレンドリー」発行(3月)  
・ホームページによる広報：随時更新中

### 【多文化共生事業】

#### 《外国人市民支援事業》

#### ＊外国人市民の日本語学習支援

- ・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援 (毎日(休館日を除く))  
学習者数：163人、ボランティア数：102人(2月末現在)
- ・外国人市民のための日本語教室<文化庁受託事業>  
基礎コース(3期)、せいかつのにほんごクラス  
計98人受講
- ・にほんごおしゃべりルーム(毎週日曜日)
- ・日本語教育の学習教材作成<文化庁受託事業>(2月完成)
- ・就学前外国人児童日本語等指導事業  
<大垣市受託事業>(11～3月) 参加者：40人

#### ＊外国人市民のための相談窓口の設置

- ・相談窓口(ポルトガル語、中国語、英語)
- ・行政書士による手続き相談会(毎月第1日曜日)
- ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための行事・講座  
・外国人市民のための日本文化講座(和服体験)  
年22回実施 参加者：67人  
・外国人市民のための浴衣着付け体験(8/24)  
参加者：22人(ブラジル、ペルー)  
・神輿体験 in 十万石ふる里まつり(10/7)  
参加者：22人(ベトナム、ブラジル)
- ＊ブラジル人等子弟日本語学習支援事業  
・日本語指導者講師派遣(学校法人HIRO学園への派遣)  
(毎週火・金曜日)

# 平成31年度 事業計画

## 【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ＊大垣市・小中学生研修派遣(中国・邯鄲市)(7月)
- ＊大垣市中学生研修派遣(ベルギー・ナミュール市)(9月)
- ＊大垣市高校生研修派遣(アメリカ・ピートン市、ユージーン市)(10月)
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入(8月)
- ＊ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入(9月)

## 【地域国際交流事業】

- ＊多文化紹介講座(7月、9月、1月)

## 【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ＊日本語指導ボランティア講座(7月、10月、1月)
- ＊ボランティアの集い(3月)

## 【外国語基礎会話講座事業】

- ＊英語基礎会話講座(10月)
- ＊ポルトガル語基礎会話講座(10月)
- ＊韓国語基礎会話講座(1月)
- ＊中国語基礎会話講座(1月)

## 【海外事情紹介事業】

- ＊海外研修派遣団員報告会  
(小・中学生:11月、高校生:12月)

## 【民間国際交流助成事業】

- ＊民間国際交流団体助成(随時)

## 【国際相互理解事業】

- ＊事業記録写真等展示<海外紹介、事業紹介>(随時)
- ＊機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
- ＊ホームページによる広報(<http://www.i-oiea.jp>)

## 【多文化共生事業】

- ＊外国人市民の日本語学習支援
  - ・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援(通年)
  - ・にほんごおしゃべりルーム(通年)
  - ・外国人市民のための日本語教室  
基礎コース(5月、8月、11月開講)  
せいかつのにほんごクラス
  - ・日本語教育シンポジウム(2月)
  - ・就学前外国人児童の日本語学習指導教室  
<大垣市受託事業>(11~3月)
- ＊相談窓口開設
  - ・相談窓口開設<ポルトガル語、中国語、英語>(通年)
  - ・行政書士による行政手続き相談会(毎月第1日曜日)
  - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための和服体験(通年)
- ＊外国人市民のための浴衣体験(8月)
- ＊外国人市民のためのお神輿体験(10月)
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
  - ・日本語指導者派遣(通年)

## イ シ フ オ × ー シ ョ ン

### <ボランティア募集>

公益財団法人大垣国際交流協会(OIEA)では、ホームステイ、日本文化紹介、通訳・翻訳、日本語指導、企画・運営などの各ボランティアを随時募集しております。

### <賛助会員募集>

OIEAでは国際交流に関心のある方、又OIEAの設立趣旨や活動をご理解のうえ、支援していただける賛助会員制度を設けています。個人会員と団体(法人)会員があり、ご賛同いただける方を広く募集しています。

年会費(1口)は、個人会員:3,000円、団体会員:10,000円です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

## 大垣市内在住外国人の国籍別人数表

総数:5,233人(前号(平成30年3月号)との比較(520人増) ※平成31年2月末現在

	人数	3月号との比較		人数	3月号との比較		人数	3月号との比較
ブラジル	2,314	304	ボリビア	8	5	ドイツ	1	0
中国	1,239	37	マレーシア	7	1	ガーナ	1	1
フィリピン	414	10	エジプト	7	2	メキシコ	1	0
ベトナム	355	104	イギリス	7	-2	オランダ	1	-1
韓国又は朝鮮	290	-9	イタリア	5	3	ニュージーランド	1	0
ペルー	148	8	カナダ	4	-2	ロシア	1	0
ネパール	118	39	ルーマニア	4	-2	スウェーデン	1	0
インドネシア	59	18	トルコ	4	0	オーストリア	0	-1
カンボジア	35	-4	コロンビア	3	0	フランス	0	-3
アメリカ合衆国	32	0	コートジボワール	3	2	グアテマラ	0	-1
スリランカ	31	9	ラオス	3	0	イラン	0	-1
タイ	29	4	シンガポール	3	0	アイルランド	0	-1
パキスタン	23	2	アルゼンチン	2	0	ポルトガル	0	-9
ミャンマー	21	4	オーストラリア	2	-1	スイス	0	-1
バングラデシュ	14	2	ドミニカ共和国	2	-2	無国籍	4	1
インド	12	0	モルドバ	2	0			
台湾	9	1	パラグアイ	2	0			
モンゴル	9	3	ウクライナ	2	0			

## 編集後記

大垣国際交流協会の設立30周年を迎え、記念誌を編集する中で、フレンドリー87号の表紙に、今年度の協会事業を振り返る写真を掲載いたしました。

平成の最後の節目の時期に、フレンドリー87号と記念誌を発行できることに感慨を覚えます。

30周年記念事業「フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い」では、協会を支えていただきました皆様が、これからの国際交流の意義を考えられ、世界の平和を願っておられました。

これからも、国際交流が楽しくフレンドリーであることが世界の願いです。

### 【みなさまからの情報をお待ちしております】

個人や団体などの国際交流活動、海外での異文化体験などの情報等ありましたら、事務局までお知らせください。また、ご意見、ご感想などありましたら、併せてお寄せください。

# フレンドリー No.87

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地 スイティアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<http://www.i-oiea.jp/> [E-mail] [oiea@mb.ginet.or.jp](mailto:oiea@mb.ginet.or.jp)

発行／2019年3月

印刷／サンメッセ株式会社

